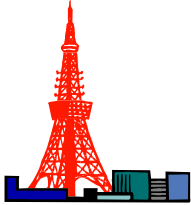




のっぽの手

〒960-8034 福島市置賜町1-29 佐平ビル
 TEL 024(528)1211 FAX 024(528)1218
 E-mail center@f-npo.jp
 URL <http://www.f-npo.jp/>



希望の見えないチェンジ

理事 清水 修二

小選挙区制の恐ろしさというか、気分が動く投票の怖さというか、民主党が大勝ちして政治が興味津々たる観察の対象になった。子ども手当だの高校授業料や高速道路の無料化だの、耳に快いいろんな約束を、増税しないでどうやって実現するか、人々はマジックショーでも見物する気分で眺めている景色だ。官僚から権力を奪取して国民生活本位に予算編成をすれば、十分にそれは可能だと民主党は言っている。官僚をやり玉にあげて叩いてみせれば大衆の支持を得られるという発想は、4年前の郵政民営化選挙戦略とそう大きく変わらない。必要な財源も、公務員の人件費や天下りをハッサリやれば相当額ひねり出せるという。本当にそうなのか、みんな半信半疑で様子を見ているのではなからうか。

「官から民へ」仕事を移せば問題は解決すると小泉政権は唱えたが、鳩山新政権は「市場原理主義は誤っている」と主張しているから、同じ手は使えない。では「官」を削った穴をどうやって埋めるのか。そこでクローズアップされるのが「もうひとつの民」だ。同じ民でも民間企業ではなく「市民活動」、企業は企業でも営利企業でなく「社会企業」を支援し拡大する。そこに活路があるという観点が注目されるべきだ。そこでNPOの出番という順序になる。

けれども、新しい公共サービスの担い手たるべく日本のNPOの力量が十分に育っているかと言えば、現実決して楽観できるものでないことをNPOのオピニオンリーダーは率直に認めている。実際、役所の官僚機構を凌ぐほどのしっかりした民主的規律や経営手腕をもったNPOは、少なくとも私の周囲にはきわめてまれにしか見当たらない。私自身ふくしまNPOネットワークセンターの理事長を2年やって

みて、達成感よりもはるかにしばしば挫折感や消耗感を味わってきた。フラットな一対平等な人間関係の上に成り立つ市民活動組織の運営は、大変むずかしい。「同志関係と労使関係の融和的結合」も容易なわざでないことが身にしみて分かった。正直なところ、市民活動をしてみて「官僚機構の有効性」をかえって再認識するといった、皮肉な成り行きになっている。このままだと「敗北の総括」でケリ、という情けない始末になりかねない。

国民の多くは、民主党新政権を「お手並み拝見」の気持ちで眺めていると思うが、試されているのは国民自身だと考えるべきだ。やらせてみてダメならまた取り換えればいいというほど、政治はお気軽に「安全」なものではない。失敗したときに国民の被る災厄は測り知れない。私は、国家破産が契機になったハイパー・インフレーションの可能性さえ想定している。さっさと退職金をもらってユーロかゴールドに換えて自己防衛するのが賢明かもしれない、などと半ば本気で考えている。

私事にわたって恐縮だが、私は先日「祖父」になった。いま生まれたばかりのその子の30年後40年後がどうなっているか、大いに心配である。はたしてその時の日本では、市民活動が百花繚乱、あらゆる社会の隅々に浸透しているだろうか。それとも日本の国自体が、中国という大樹の陰で衰退の淵に沈んでいるだろうか。あるいはひょっとして、想像もしたくないような戦乱に再び身を投じているのではあるまいか。

政権交代は、ほんらい新しい時代の明るい幕開けとして迎えられべき出来事のはずだが、世を覆う「ぼんやりした不安」の霧は一向に晴れない。

会津若松市の取り組み・・・第54回研究会報告

理事 星野 珉二

会津若松市は議会基本条例を制定し、市政に市民の声を反映させる仕組みをつくりました。NPOの活動を経て市議員になられた清川さんに、会津若松市で導入した新しい市民の声を反映させる仕組みについて大いに語っていただきました。

会津若松市では平成19年7月に議会制度検討委員会を設置し、翌年6月の答申を目指して検討を開始しました。メンバーは議員＋公募市民＋学識経験者から構成されています。ちなみに、学識経験者として福大の松野先生が入っています。答申を受けて可決された議会基本条例の意義は、「市民参加を機軸とした新たなマネジメントサイクルモデルの確立と実践によって、積極的な政策形成を行い、まちづくりに貢献していくことを目指す」というものです。具体的なツールとしては、広報広聴委員会を立ち上げ、各地で市民との意見交換会を開催し、議会での政策討論を経て政策形成に反映させていくものです。この政策形成サイクルを、マネジメントサイクルとして回していくという考え方です。市民との意見交換会は、意見交換機能と議会報告機能という2つの機能を果たすべく、年2回、市内15箇所で開催されるとのことです。これらのサイクルをきちんと回して実効性を上げていくためには、議会・議員の調査研究能力の向上など、今後備えるべき課題もあるとのこと。会津若松市の議会改革は全国的にも注目され、視察が63議会（450人）に及んでいるとの報告がなされました。

最後に会津若松市のNPO支援について尋ねてみたところ、NPO熱が冷めて一時より後退しているかもしれない、という感想が述べられました。

わっしょい、わっしょい！

ふくしま情報ステーション所長 齋藤美佐

秋の行楽シーズンとともに、ふくしま情報ステーションには観光やイベントなどの情報が次々と届けられています。中でも“祭り”のポスターは躍動感のあるものが多く「一度は見に行ってみようかな」という気が湧いてきます。

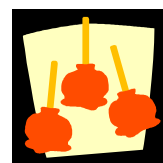
祭りといえば、神輿を担ぎ、まちを練り歩きますが、このときの掛け声にはきちんと意味があることがわかりました。「ワッショイ」は「和一处」「和一緒意」であり、「ソイヤ」は「添いな」が転じたものといわれています。また「オリヤ」などは、みこしの担ぎ手の不足を漁師などで補ったために、引き網の掛け声が残ったといわれているそうです。

わっしょい＝和一緒意、ソイヤ＝添いな（寄り添う）、素敵な言葉だったんですね。

ふくしま情報ステーションは観光案内を主な目的としていますが、NPOが運営を続けていることにも、きちんと意味があります。行政と市民をつなぐ身近な窓口であり、まちの活性化をはかる、という大きな役目もあるのです。それは設置当初に全国まちの駅連絡協議会に「まちの駅」として登録し、看板を掲げたことから見てもわかります。

私が情報ステーションに席を置いてから1年と8ヶ月が過ぎようとしています。ステーションの利用促進や関係機関との連携などについて、前向きに取り組んできましたが、あらためて「まちの駅」の存在と活用について、生きたネットワークを構築したいと考えています。

その実現のためには、皆さんの知恵とお力が必要です。そして楽しく“わっしょい、わっしょい”と元気を出して取り組み、さらにその元気を皆さんで分かち合いたいと心から願っています。さあ、皆さんと一緒に「わっしょい！」のご唱和をお願いします。



「おもてなし」のこころをそえて ～ふくしま飛行協会～



NPO法人 ふくしま飛行協会 斎藤 喜章

プロのパイロットを目指したのではなく、「飛行機が好きだ！」の気持ちに突き上げられ自家用飛行機パイロットになった多くの人たちは、「ライセンスを取得し飛行機を自らの手で操縦した」ことで概ねの目的達成感を得る。

しかし私たち（自家用飛行機パイロット十数名）は平成14年の秋口から翌年の春先までNPO結成のための熟慮の時間を経ることとなった。

ミッションの確立、そして持続性の確保、何にも増して重要なことは個人の達成感を社会と共有する公益性など、熟慮のときからNPOの設立を経て今年の秋口で7年が経過しようとしている。今もミッション「航空文化・航空スポーツの振興」「災害救助活動（赤十字飛行隊福島支隊の結成）」「子どもの健全育成（少年少女航空教室）」は継続発展している。

今年の10月17日（土）から18日（日）にかけて、日本最大級の航空イベント“スカイ・レジャー・ジャパン2009Inふくしま”がスカイパークで開催される。飛行機・ヘリコプター・グライダー・気球・パラシュートジャンプ等々、紙飛行機から模型飛行機まで翼を持つあらゆるジャンルが勢ぞろいするイベントだ。東北初の開催でもある。

ふくしまスカイパークは農産物を空輸する目的で建設（平成10年）されたが、指定管理者制度を活用し多面的な方法で航空スポーツイベントと農産物PRを融合したスカイアグリ事業（平成18年～）を定着させてきた。そして、少しずつではあるが市民の理解と期待を得てきたように思う。

そしてことし、スカイアグリ事業をベースとして新しい観光スポットをかねた“スカイ・レジャー・ジャパン”を開催することとなった。この“スカイ・レジャー・ジャパン”は今回で21年目を数える全国持ち回りの航空レジャー推進のイベントでありレジャー航空各団体代表の展示飛行や機体展示などで構成されている。そして固定ファンも多く全国からの来場者二万人を見込んでいる。

前述したが私たちはスカイパークを新しい観光スポットとして発展させたいと取り組んでいる。だから重要側面はなんといっても「おもてなし」であることは言うまでもない。

「おもてなし」の心にそえて福島を上手にPRしよう。「おもてなし」が具体的に形に表れるのは全国からの航空関係者を招いてのウエルカム・パーティーだろう。フルーツ王国特産のくだものを美しい秋の花々と一緒に盛り付けたフルーツバスケットでテーブルを華やかにする。ビッグバンド編成の古閑裕而メドレーは参加者の心躍らせ福島の高い音楽性を知ってもらおうチャンスになるはずだ。

これらの事業をとおし美しく豊かな福島の情報発信をしていきたい。

しかし、我々ふくしま飛行協会のメンバーやボランティアの疲労度もピークに達するだろう。だが、成功の文字に隠されている喜びは私たちの進化のエネルギーになることであろうことを確信し、このごろの報告としよう。

新職員紹介・・・ふくサポ・・・

福島市市民活動サポートセンター 丹野 真一

この5月から、ふくしまNPOネットワークセンターの一員として市民活動サポートセンター（通称ふくサポ）に配属された丹野です。このたび「自己紹介をせよ」との命を受け、この文章を書いているわけですが、なにせ働き始めてから既に6ヶ月が過ぎようというこの時期です。NPOや市民活動に携わったことのない私が今日までなんとか職務をこなせたのは、ひとえに周りの皆様のご指導・ご助力があったることと改めて認識し、お礼を述べる場とさせていただきます。ありがとうございました。

福島市市民活動サポートセンターから

市民活動サポートセンター主催講座スケジュールをお知らせいたします。

オープンセミナー(講演会)		
11月14日	第二回 「一店逸品で街の活性化」	13:30～15:30
	講師:加藤 博 氏(青森商工会議所常議員)	会場:ラヴィバレホール
市民活動ステップアップ講座		
10月24日	第三回 「蓬萊地区のまちづくり」	13:30～15:00
	講師:小林 悦子 氏(蓬萊まちづくりコミュニティ『ぜえね』代表)	会場:ウイズ・もとまち
12月5日	第四回 「協働のまちづくりを進める」	13:30～15:00
	講師:牧田 実 氏(福島大学准教授)	会場:ウイズ・もとまち
NPOマネジメント講座		
11月28日	第二回 「支援獲得の上達法」	10:30～12:00
	講師:横田 篤 氏(特定非営利活動法人福島夢集団代表)	会場:ウイズ・もとまち
平成22年 1月30日	第三回 「NPOの会計講座」	10:30～16:00
	講師:加藤 英夫 氏(有限会社かとう会計事務所代表)	会場:ウイズ・もとまち
平成22年 2月6日	第四回 「NPOの税務講座」	10:30～16:00
	講師:加藤 英夫 氏(有限会社かとう会計事務所代表)	会場:ウイズ・もとまち
平成22年 2月20日	第五回 「パソコンで解決・会計処理講座」	10:00～16:00
	講師:早川 哲郎 氏(ITコンサルティング早川事務所代表)	会場:ウイズ・もとまち

申し込み・問い合わせは、すべてふくサポへどうぞ。

〒960-8044

福島市早稲町4-16 ラヴィバレ一番丁 3階

電話:024-526-4533 FAX:024-526-4560 電子メール:f-ssc@bz01.plala.or.jp

mailタイトルには、講座名を明記してください。

本文には、ご氏名・団体名(団体に所属されている方)・連絡先(電話、FAX、携帯電話等)・受講の動機を必ずご記入ください。

ふくしま市民活動フェスティバル2009実行委員会から

ふくしま市民活動フェスティバル2009を、平成21年12月13日(日)午前10時から開催いたします。会場はコラッセふくしまとなります。詳細が決まり次第チラシ、ポスター、HP等でお知らせいたします。皆様のご参加をお待ちいたしております。

“パートナーシップ2009” 事業のお知らせ

ふくしまNPOネットワークセンターではボランティア体験希望者を募集する事業を9月から始めました。詳細はふくしまNPOネットワークセンターへお問い合わせ下さい。また、コラッセふくしまの情報ステーション、県内労働金庫各支店等にパンフレットを配置してありますのでご覧下さい。

ふくしまNPOネットワークセンター事務局 <http://www.f-npo.jp/>
 〒960-8034 福島市置賜町1-29 佐平ビルB1
 TEL 024-528-1211 FAX 024-528-1218
 E-mail: center@f-npo.jp

